



連絡先検索認証

- [連絡先検索認証の概要 \(1 ページ\)](#)
- [連絡先検索認証タスクフロー \(1 ページ\)](#)

連絡先検索認証の概要

連絡先検索認証は、会社のディレクトリにアクセスするユーザが自分で認証することで、システムのセキュリティを強化します。この機能により、ディレクトリが外部関係者によってアクセスされるのを保護します。

連絡先検索認証タスクフロー

Unified Communications Manager で連絡先検索の認証をセットアップするには、次のタスクを実行します。この機能が設定されている場合、ユーザはディレクトリで他のユーザを検索する前にユーザ自身を認証する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	連絡先検索の認証の電話サポートの確認 (2 ページ)	電話でこの機能がサポートされていることを確認します。Cisco Unified Reporting で [Unified CM Phone Feature List] レポートを実行し、この機能をサポートしている電話モデルのリストを確認します。
ステップ 2	連絡先検索の認証の有効化 (2 ページ)	Unified Communications Manager で連絡先検索の認証を設定します。
ステップ 3	連絡先検索用のセキュアなディレクトリ サーバの設定 (2 ページ)	電話のユーザがディレクトリで他のユーザを検索したときに示される URL を Unified Communications Manager で設定するには、次の手順を実行します。

連絡先検索の認証の電話サポートの確認

導入環境内の電話が連絡先検索の認証をサポートしていることを確認します。[Phone Feature List] レポートを実行して、この機能をサポートしているすべての電話モデルのリストを取得します。

- ステップ 1 Cisco Unified Reporting から [システム レポート(System Reports)] をクリックします。
- ステップ 2 [ユニファイド CM 電話機能 (Unified CM Phone Feature)] を選択します。
- ステップ 3 [ユニファイド CM 電話機能 (Unified CM Phone Feature)] レポートをクリックします。
- ステップ 4 [製品 (Product)] フィールドはデフォルト値のままにします。
- ステップ 5 [機能 (Feature)] ドロップダウンから [Authenticated Contact Search] を選択します。
- ステップ 6 [Submit] をクリックします。

連絡先検索の認証の有効化

電話ユーザの連絡先検索認証を設定するには、Unified Communications Manager で次の手順を使用します。

- ステップ 1 コマンドライン インターフェイスにログインします。
- ステップ 2 **utils contactsearchauthentication status** コマンドを実行し、このノードの連絡先検索の認証の設定を確認します。
- ステップ 3 連絡先検索の認証の設定が必要な場合、
 - 認証を有効にするには、**utils contactsearchauthentication enable** コマンドを実行します。
 - 認証を無効にするには、**utils contactsearchauthentication disable** コマンドを実行します。
- ステップ 4 すべての Unified Communications Manager のクラスタノードに対してこの手順を繰り返します。

(注) 変更を有効にするには、電話をリセットする必要があります。

連絡先検索用のセキュアなディレクトリ サーバの設定

UDS がユーザ検索リクエストを送信するディレクトリサーバ URL を Unified Communications Manager に設定するには、次の手順を使用します。デフォルトの値は `https://<cucm-fqdn-or-ip>:port/cucm-uds/users` です。



(注) デフォルトの UDS ポートは 8443 です。連絡先検索の認証が有効になると、デフォルトの UDS ポートは 9443 に切り替わります。その後、連絡先検索の認証を無効にした場合は、UDS ポートを手動で 8443 に戻す必要があります。

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Administration から、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameter)] を選択します。

ステップ 2 [Secure Contact Search URL] テキスト ボックスに、セキュアな UDS ディレクトリ要求の URL を入力します。

(注) URL には、Cisco TFTP サービスを実行していないノードを選択することを推奨します。Cisco TFTP と UDS サービスのいずれかのサービスが再起動すると、互いに悪影響が及ぶ可能性があります。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。